

会長就任のご挨拶



一般社団法人軽金属学会
会長 山内 重徳

この度、里 達雄前会長のあとを受け、会長に就任することとなりました。大任を仰せつかり、責任の重さを痛感しております。微力ながら、これからの2年間、副会長の三輪謙治先生、伊藤吾朗先生と力を合せ、軽金属学会の一層の発展のため全力を尽くす所存ですので、会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

まずもって、3月11日に起きた未曾有の東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）により亡くなられた皆様に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。この震災で被災された方々の避難はまだ続き、企業では生産活動が停止、あるいは大学での研究が困難になっているとのこと、一刻もはやい復興をお祈りいたします。

さて、軽金属学会は今年で60周年を迎えます。本学会は1951年軽金属研究会として発足して以来、現在では会員数2000名を超える学会に成長しました。軽金属に特化した学会は海外にはなく、異色の存在として注目されています。本年4月には従来の社団法人からあらたに一般社団法人軽金属学会として出発しました。これを契機に、里前会長のもとで実施してきた「軽金属学会の強みと弱み」の分析を通じて、本学会の強みをいっそう強くし、弱みを克服していくことが必要になっています。軽金属学会の強みはアルミニウムやマグネシウムなどの軽金属に特化して学術講演会の開催、学会誌の発刊を行い、この分野の学術研究の中心的役割を果たして、産官学の連携・協力が非常に良いことが挙げられます。この強みを生かして、今後産業界で必要としているテーマの抽出、研究体制の構築、大型予算の獲得、人材交流を図ることが強く望まれています。弱みとしては、維持会員の減少、金属系分野の研究者が減少してきて、その結果として軽金属を専攻する学生が減ってきていること、中・長期戦略目標の不明確などが指摘されております。

中長期戦略に関しましては、軽金属学会は、日本アルミニウム協会とともに将来の軽金属の動向を調査する技術サロンやロードマップ作成に参画し、また軽金属学会参与会を通じて、ユーザーの意見をヒアリングしながら、将来の技術動向を探ろうとしています。そのような活動成果は日本アルミニウム協会や軽金属学会のロードマップに反映されております。今後はロードマップで挙げられている課題の具体化を図り、研究部会活動などに反映させていきたいと考えます。

軽金属関連の将来の研究を担う学生や若手研究者の人材育成は喫緊の課題です。軽金属学会はこれまでに、人材育成事業として学生を対象に軽金属学会希望の星賞や女性研究者を対象に女性未来賞を創設してきました。学生の企業でのインターンシップの活用や日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会と連携して、企業の望む人材とは何か、企業での研究活動とは何か、企業で何ができるかを学生に明らかにしていくことも必要です。また、若手研究者の育成では、研究部会活動の中に大学の若手研究者や企業の研究者を参加させ、積極的に交流を図り、共通の課題に取り組んでいくことも重要と考えます。軽金属関連の研究活性化のためには、関連協会や大学の研究者と共に課題を抽出し、国の科学技術予算の獲得にも積極的に行動していくことが必要です。

国際交流の面では、昨年は横浜で開催されたアルミニウム合金国際会議 ICAA12 を成功させてきましたが、特に、企業ではその活動のグローバル化が進むにつれて、国際交流に対応できる専門家の人材不足も挙げられます。国際交流プログラム ICP、2012 年開催予定の軽金属アジアフォーラム AFLM、欧米各国の大学、企業との交流を通じてこのような課題に軽金属学会は応えていきたいと考えます。

最後に、学会の維持発展に必要なのは、その健全な財政基盤です。組織のスリム化、経費の削減に取り組むと共に、特に維持会員の増加が必要です。このためには軽金属学会を魅力あるものにすることが重要です。会員のニーズに応えた学会誌の編集、企画行事、セミナーの充実、支部活動の活性化による会員獲得、ホームページの充実による一層の PR 活動に努めていく必要があります。これらの課題に先頭に立って取り組んでいく所存でございます。会員の皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただき、ご支援・ご協力をお願い申し上げ、会長就任の挨拶とさせていただきます。